

## 図書館が行う子育て世代への就労・起業支援事業について

渡邊 恭子

長岡市立中央図書館

### 1. はじめに

令和2年度の第20回ビジネス・ライブラリアン講習会は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い集合研修が難しいため初の遠隔講習での実施となった。

12月に始まった事前課題でビジネス支援に熱心な図書館を選ぶという課題があり、全国の公立図書館のホームページ（以下、HP）を多数閲覧することになった。例えば鳥取県立図書館HP<sup>1</sup>では、特色あるサービスの一つとして「ビジネス支援」の項目を設け、サービス内容を分かりやすく紹介したチラシをはじめ、最新の講座情報・過去の事例・調べ方ガイド・館内の関連コーナー紹介・無料相談会等の情報がきちんと整理され一覧できる仕組みになっている。他の図書館でも調べ方ガイドや調査に役立つリンク集を掲載しており、レファレンス研修の事前課題を自宅で作成する際に大変参考になった。HPが非来館型の重要なサービスであることを実感した。また、ビジネス支援事業案作成では、自分の住む地域の課題や自館のサービスを顧みるよい機会になった。1月からはYouTubeによるオンデマンド講義視聴と課題の提出、2月にはZoomによるオンライン講義、質疑応答、ワークショップ等、3カ月以上にわたってビジネス支援サービスについて学んだ。

これらの経験を踏まえ、長岡市立中央図書館で実施する新たなビジネス支援サービスとして、子育て世代への就労・起業支援事業を提案する。

### 2. 長岡市と長岡市立図書館の概要

新潟県長岡市は、人口約26万人、面積約891.06km<sup>2</sup>、海と山に囲まれた自然豊かな都市<sup>2</sup>である。市内中央を流れる日本一の大河・信濃川の河川敷では毎年8月2・3日に長岡まつり大花火大会が開催され県内外から多くの観光客が訪れる。平成17年（2005）から平成22年（2010）にかけて10の市町村と合併し、米、日本酒、醸造、火焰土器、錦鯉、闘牛など様々な歴史・文化・特色を持っている。教育を大切にする「米百俵」の精神<sup>3</sup>を受け継ぎ、次世代に長岡の誇りを伝える人材育成と未来への投資を積極的に行っている。

長岡市立図書館は、大正8年（1919）に実業家野本恭八郎から資金の寄贈を受けて開館した互尊文庫にはじまり、平成30年（2018）に開館100周年を迎えた。現在中央図書館の他、7つの地域館と1地区図書室、2台の移動図書館車「米百俵号」、7つの取次所を設置して市内全域にサービスを行っている。

開館当時の名を残した地域館である互尊文庫が建物老朽化のため令和5年度に移転し、駅前通りの複合施設、人材育成と産業振興を支える地方創生の拠点「人づくり・学び・交流施設 米百俵プレイス」（仮称）内に課題解決型図書館として開館予定である。同施設内に

は、起業相談を行う専門機関や市の産業振興部署、商工会議所、銀行等が入り、図書館との様々な連携が期待できる。長岡市では「図書館＝ビジネス支援」というイメージはまだあまり定着していないため、新施設のオープンに先駆けて中央図書館のビジネス支援サービスを強化し広く知ってもらうことで開館の気運を醸成することが必要である。

### 3. 事業の背景と現状

長岡市では、人口減少の克服と地方創生を実現するため、若者定着、子育て、教育、働くなどをキーワードに戦略を立てている<sup>4</sup>。様々な施策のうちの一つとして、市内の4大学1高専や産業界と連携し、学生の起業・創業や新技術を活用したイノベーションにより新産業の創出に取り組み、起業・創業の件数を増やすことを数値目標として掲げている。また、ワーク・ライフ・バランス（一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会のこと。）の実現を目指し女性の活躍を応援する、としている。しかし、長岡市の現状は、女性就業率は49.0%と県平均49.3%よりやや低く<sup>5</sup>、開業率は、新潟県の数値であるが2.9%<sup>6</sup>と全国ワースト2位となっている。

### 4. 事業を実施するための課題

「図書館＝ビジネス支援」というイメージがまだ定着していない中で、現在図書館をあまり利用していない層を対象とした事業を行う前に、図書館をよく利用している子育て世代に役立つ事業を実施したい。この世代には就労・起業支援に対する需要があるのだろうかという課題がある。

市内の未就学児・小学生の保護者への調査<sup>7</sup>によると、就労していない未就学児の母親の就労意向について、「一番下の子どもが〇歳になった頃に就労したい」が43.4%と最も多く（〇歳は3歳が最も多い）、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（34.4%）が続いている。小学生の母親は、「すぐにでも、もしくは1年以内」が最も多く（36.0%）、次いで「子育てや家事などに専念したい」（31.3%）、「一番下の子どもが〇歳になった頃に就労したい」（28.0%）（〇歳は6～8歳が最も多い）と続く。就労を希望しない人もいるが、入園・入学等、子どもの成長に応じたタイミングでの就労を希望している人が多い。就労形態については、「パートタイム、アルバイト等」が81.5%、「フルタイム」が16.7%と、ほとんどの人が短時間労働を希望している。

以上のことから、子育て世代は就労意欲が高く、子どもの成長に応じて時間を調整できる働き方を望んでいる。起業という働き方は、自分で時間を調整しやすいため子育て世代のニーズに合っていると見える。子育て世代を対象とした就労・起業支援事業は需要があり効果的であると考えられる。

## 5. 子育て世代への就労・起業支援事業の具体策について

### 5.1. 概要

図書館を利用する機会が多い子育て世代の働く気持ちを応援し、各自に合った働き方が見つかるような情報を提供するために、「専門機関と連携した講座等の実施」、「出店体験の場を提供するイベントの開催」、「館内の子育て支援コーナーに就労・起業情報コーナー設置」、「HPリニューアル」の4つの取組みを行う。

### 5.2. 目的

この事業の目的は、子育て世代に情報を提供することで就職・起業に興味・関心をもってもらい、就職者、起業家を増やすことである。働くかどうか迷っている人、職を探している人、短時間働きたい人、趣味や特技を活かして手作り品の販売や教室を開きたい人など、潜在的な求職者・起業家に、図書館が情報や実践の場を提供し専門機関と結びつける役割を担う。効果として、「図書館＝仕事に役立つ情報を得られる場所」というイメージが定着し、「米百俵プレイス」（仮称）開館に向けての気運が醸成される。また、市民からの要求が増えることで、司書のレファレンス能力が向上し、市立図書館全体としてビジネス支援サービスが強化されるという相乗効果が期待できる。

### 5.3. 対象

対象者は、子育て世代、特に未就学児から小学校低学年くらいまでの子どもをもつ女性を想定している。この世代は、産前・産後休暇、育児休業、離職などにより来館する時間的余裕があり、出産・育児書または子どもと一緒に絵本を借りに来館する機会が増える。また、結婚、妊娠、出産を機に転居や離職・休職する場合や、子どもを持つことで人生の価値観や生活の優先順位に変化が起き、働き方を見直す必要に迫られている場合がある。潜在的な求職者であり起業家の予備軍といえる子育て世代に就労・起業情報を提供することで就労者・起業家のすそ野を広げることができる。子育て世代にとっても、他の目的で訪れた図書館で就労・起業情報に出会うことで、各自が自分に合った働き方を見つける可能性が高まる。就労・起業の専門機関と比べると、乳幼児や小学生を連れて足を運びやすく講座等に参加しやすい。子育て支援機関と異なり、子どもが成長した後も通うことができるメリットがある。さらに、ビジネス支援サービスの経験が少ない図書館職員にとっても、なじみのある利用者層であるため抵抗感が少ない。

### 5.4. 事業の具体策

#### 5.4.1. 専門機関と連携した講座等の実施

図書館を会場として提供し専門機関がすでに行っている講座等を開催する。図書館ならではの誰でも無料で来館できるイメージを活かし、おはなし会付、託児付き、自宅や子育て

支援施設からオンラインで視聴できるなど、参加しやすい工夫をする。内容は、就労・キャリアアップ・起業等について専門機関の職員等が講師となり、図書館職員が同席・協力する。

#### 5.4.1.1. 就労支援講座「おはなし会&働く前の基礎知識～扶養内で働くとは？」(年2回)

連携先：ワークプラザ長岡マザーズコーナー

内容：専門機関職員から税金や社会保険など働く前に知っておきたい知識を学ぶ。

図書館の役割：会場提供、絵本の読み聞かせなどのおはなし会、ビジネス支援サービスの紹介と子育てと仕事の両立等をテーマにしたミニブックトーク実施、館内ツアー

#### 5.4.1.2. 再就職・復職支援講座「託児付きキャリアアップ講座」(各年1回計4回)

連携先：ワークプラザ長岡マザーズコーナー、保育サークル

内容：美文字講座(履歴書の書き方)、メイクアップ講座(履歴書写真の撮り方)、ビジネスマナー講座(接遇)、面接指導など、再就職や育児休業復帰に役立つ内容を学ぶ。

図書館の役割：会場提供、講座関連本のブックトーク実施、ビジネス支援サービス紹介

#### 5.4.1.3. 起業支援講座「子連れOK! プチ起業のはじめ方」(年1回)

連携先：産業支援課、新潟県起業支援センターCLIP長岡、子育ての駅<sup>8</sup>

内容：趣味を活かして自宅で開業した女性の体験談を座談会形式で聞く。起業補助金制度も紹介。子育ての駅や自宅からオンラインで視聴可能にする。

図書館の役割：会場提供、講座関連本のブックトーク実施、ビジネス支援サービス紹介、子育ての駅に関連本を団体貸出

#### 5.4.1.4. 起業支援講座「託児付き起業スクール&フォローアップ講座」(各年1回)

連携先：産業支援課、新潟県起業支援センターCLIP長岡、保育サークル

内容：アイデア構想・ビジネスモデルのブラッシュアップ・お金の流れ・マーケティングなどを学び、ビジネスプランを作成する。また、フォローアップ講座では、確定申告の準備・方法や、SNSを使った集客方法等、起業後のサポートも行う。

図書館の役割：会場提供、参加者のビジネスプランに関連した資料・情報の提供、館内ツアー、データベースの使い方紹介、レファレンス体験会など

#### 5.4.2. 起業支援イベント「出店体験! チャレンジマルシェ」開催(随時)

講座で学んだ後に起業プランを実践する場として、受講生が出店体験できるイベントを図書館で開催する。例えば、屋外では敷地内の緑地帯や正面広場でカフェや食品の販売、屋内ではエントランスホールで物販、講座室で教室やサロンのワークショップを行うなど、市場(マルシェ)のようなイメージで出店にチャレンジしてもらう。

出店しやすい工夫として、事前に関係機関と連携した相談会を開催し出店に必要な臨時食品衛生許可申請等の手続きを行うほか、出店中の託児を行う。

行政や商店街が主体となって、起業後間もない人や起業したい人向けに低価格で空き店舗のスペースを貸すチャレンジショップという取組みを行っている場合があるが、一般的には半年から数年単位のことが多い。本事業では、気軽に参加してもらえるよう平日の午前のみ、土日の午後のみなど、出店者の希望に応じた働きやすい日程設定が可能である。また、おはなし会や映画会、友の会の古本市、移動図書館車での貸出など、図書館のイベントを合わせて実施することでより多くの集客が見込める。

このイベントを起業のきっかけにしてもらうだけでなく、図書館が就労・起業支援を行っていることを広く知ってもらう機会にもなる。さらに、同世代の出店者の働く姿や商品・サービスを目にし、起業してみたいと思う人が出てくるのが期待できる。

#### 5.4.3. 子育て支援コーナー内に就労・起業情報コーナー設置

館内にはビジネス支援コーナーがあるが、興味がない子育て世代の目にも触れるように、児童コーナーと隣接した既存の子育て支援コーナー内に子育て世代向けの「お仕事情報ミニコーナー」を設置する。子育てと仕事の両立、自宅での開業方法などの関連本や、ハローワークの求人情報、新聞の折込求人広告、関連機関のチラシ、本事業のチラシなどを設置し、具体的な就労情報の提供や起業という働き方の提案を行う。ビジネス支援コーナーやレファレンスサービスの案内を掲示し、興味を持った人がより詳しい情報にたどり着けるようにする。

#### 5.4.4. HP のリニューアルと広報

HP は広報のツールであるだけでなく、非来館型のビジネス支援サービスになるため、リニューアルする。ビジネス支援サービスを行っていることが一目でわかるようなレイアウトに変更し、調べ方ガイドや調査に役立つリンク集を掲載する。なお、パソコン用の HP だけでなくスマホ用の HP も変更する。

ビジネス支援サービスの広報として、市内全世帯配布の市政だより掲載や、新聞に記事として掲載してもらうこと等が考えられるが、子育て世代向けの情報発信方法としては HP や SNS が効果的であるため、長岡市の育児情報サイト「子育てナビ」<sup>9</sup>にも掲載する。

あまり図書館を利用しない人は図書館の HP を閲覧することも少ないと思われるため、確実に子育て世代に紙媒体のチラシ等を渡すことも必要である。市の子ども・子育て課と連携して行っているブックスタート事業<sup>10</sup>や乳幼児健康診査<sup>11</sup>の際に、図書館作成の年齢別おすすめ絵本リストを配布しているが、本事業についての案内も追加する。

## 6. おわりに

本事業では、図書館をよく利用する子育て世代を対象とした提案を行った。次の段階としては、対象を女性一般、高齢者、大学生などとする就労・起業支援事業、移動図書館車を利用した出張図書館事業など、図書館を利用しない・できない層に対するサービスへと進めて行きたい。

竹内利明講師の講義の中で、情報は日々新しくなるため、毎年継続してビジネス・ライブラリアン講習に職員を派遣することが大事、という言葉があった。今回、札幌市立図書館、荒川区ゆいの森あらかわ、高知県立図書館オーテピアなど、ビジネス支援に力を入れている図書館は複数の職員を派遣しており、職員育成の重要性を感じた。この講習で得た知識、先進図書館の情報を活かし、ビジネス支援サービスを継続したい。

## 脚注

- 1 鳥取県立図書館ホームページ (<http://www.library.pref.tottori.jp>)
- 2 『長岡市市勢要覧 2021』長岡市広報課 2021. 4  
(<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate02/youran/file/2021.pdf>)
- 3 「米百俵」の精神 戊辰戦争に敗れた長岡に送られた米百俵を食べるのではなく、国漢学校設立の資金にあてた逸話。現在でもまちづくりの指針や教育の理念となっている。  
(<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/cate12/kome100/kome100.html>)
- 4 『第2期長岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略／人口ビジョン～長岡若返り戦略～』長岡市 2020 p9、11、17  
(<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/cate11/senryaku/file/rejuvenation-01.pdf>)
- 5 『新潟県 100 の指標』令和元年度版 新潟県総務監理部統計課／編 新潟県統計協会 2019 p135 (<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/185198.pdf>)
- 6 『中小企業白書』2020年版 中小企業庁 第1部第3章第1節 企業数の変化と開廃業の動向 ([https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2020/chusho/b1\\_3\\_1.html](https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2020/chusho/b1_3_1.html))
- 7 『長岡市子育て・育ち“あい”プラン策定に関するニーズ調査報告書』長岡市教育委員会 2019  
([https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kosodate/cate02/seido/file/needs-survey\\_h30.pdf](https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kosodate/cate02/seido/file/needs-survey_h30.pdf))
- 8 「子育ての駅」 雪国の子どもたちに冬でも遊べる場所を確保するため、全天候型屋根付き施設。保育士が常駐し子育て相談の場を設けるなど、子育てや親同士の交流を支援する。長岡地域に3か所、支所地域に各1か所、合計13か所ある。
- 9 「子育てナビ」 育児を応援する長岡市の行政サービスガイド
- 10 「ブックスタート事業」 長岡市では、生後5～7カ月児の身体計測などを行う「赤ちゃん相談」の際に、赤ちゃんと保護者に絵本を1冊プレゼントし、読み聞かせボランティアや図書館司書が「子育てを応援していますよ」などのメッセージを添えて、赤ちゃんに絵本の楽しさを分かち合うことの大切さや喜びを伝える事業。平成15年（2003）から実施。
- 11 「乳幼児健康診査」長岡市に住民登録がある1歳半児と3歳児を対象に身体計測、問診等を実施。

(最終確認日 2021. 6. 15)